

畑雑草の幼植物 (7)ナス科ナス属

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

日本に生育するナス属 *Solanum* の雑草には、イヌホオズキ *Solanum nigrum*, オオイヌホオズキ *S. nigrescens*, テリミノイヌホオズキ *S. americanum*, ケイヌホオズキ *S. sarrachoides*, ヒヨドリジョウゴ *S. lyratum*, ワルナスビ *S. carolinense* など約 10 種ある。イヌホオズキに非常に近縁な帰化種が複数、日本に侵入・定着しているが、花冠、果実、種子が揃わないと識別が難しいため、その分布や農耕地での生態の実態はあまり分かっていない。

ナス属の子葉はいずれも披針形である(写真-1~7)。イヌホオズキの種子の長径は約 2mm, それに対し、近縁なオオイヌホオズキ, アメリカイヌホオズキ, テリミノイヌホオズキの種子の長径は約 1.2mm である。そのため、種子の大きさを反映して子葉のサイズもイヌホオズキが大きく、縁や柄の毛が目立つ(写真-1:イヌホオズキ, 写真-2:オオイヌホオズキ)。イヌホオズキ類は液果に多数の種子を含む。農耕地では耕起されて液果ごと埋土されることが多いため、しばしば同一の液果に由来する多数の幼植物が 1ヶ所から出芽する(写真-3)。

イヌホオズキの幼葉は広卵形で、葉柄、縁に毛があり、茎や葉柄は紫色を帯びることがある(写真-4)。オオイヌホオズキの幼葉の毛はややまばらで、縁はやや波打つ場合が多い(写真-5)。オオイヌホオズキ, アメリカイヌホオズキ, テリミノイヌホオズキ(写真-6)の幼植物の形態はよく似ており、明確に識別できる

形質は見つかっていない。

ケイヌホオズキは日本ではまだ少ないが、北米大西洋岸ではジャガイモ、テンサイの重要害草である。植物体は全体に腺毛が多く、べたつき、子葉、幼葉ともに円みがある(写真-7)。ヒヨドリジョウゴは日本在来のつる性多年生植物で、林縁などに生育し、しばしば畑地や樹園地に侵入する。全体に柔らかい毛があり(写真-8)、生育が進むと葉身は羽状に 5 裂する。ワルナスビは主に根系で繁殖し、放牧草地の強害草である。子葉はナス属の他種に比べ細長く、毛は少ない(写真-9)。

典型的なイヌホオズキでは成葉は全縁か葉縁は波打つ程度であり、葉の質はやや厚い(写真-10)。また、葉柄や茎が紫色を帯びることが多い。それに対し、オオイヌホオズキ類は鋸歯があり、葉の質はやや薄い(写真-11)。イヌホオズキとオオイヌホオズキ類は花冠と果実が識別点となる。イヌホオズキの花冠は切れ込みが浅い(写真-12)。オオイヌホオズキは深く切れ込み(写真-13)、紫色を帯びるものもある。また、1花序内で同時に開花する花数もオオイヌホオズキの方が多いようである。イヌホオズキの果実(写真-14)は光沢がなく、オオイヌホオズキの果実(写真-15)は光沢がある。

参考文献：勝山輝男 2002. イヌホオズキ類の分類. 関東雑草研究会報 13:2 - 9.



写真-1 イヌホオズキの子葉。



写真-2 オオイヌホオズキの子葉。

写真-3 イヌホオズキの
幼植物集団。

写真-4 イヌホオズキの幼植物。

写真-5 オオイヌホオズキの
幼植物。

写真-6 テリミノイヌホオズキの幼植物。



写真-7 ケイヌホオズキの幼植物。



写真-8 ヒヨドリジョウゴの幼植物。



写真-9 ワルナスビの幼植物。



写真-10 イヌホオズキの生育期。



写真-11 オオイヌホオズキの生育期。



写真-12 イヌホオズキの花序。



写真-13 オオイヌホオズキの花序。



写真-14 イヌホオズキの果実。



写真-15 オオイヌホオズキの果実。